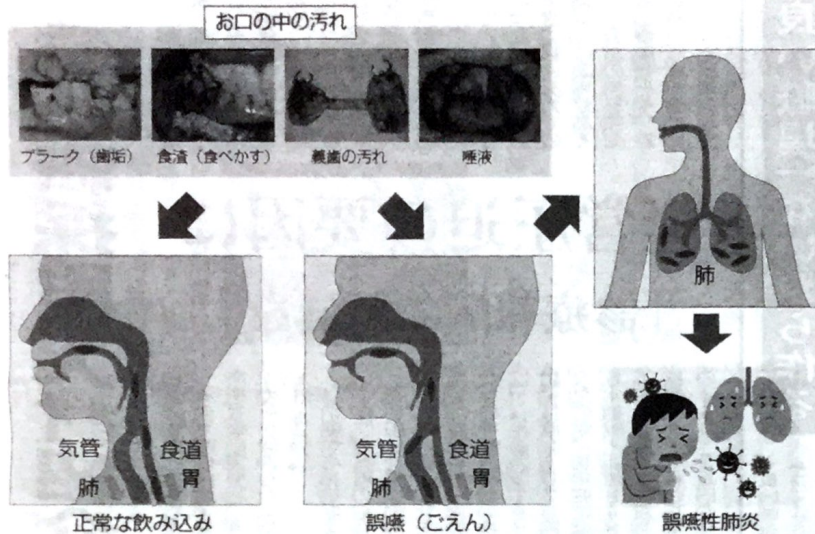


図2 誤嚥性肺炎の発症経路



口腔ケアセミナーでは多職種協働を実感

訪問歯科も、介護施設が口腔ケアを行う機会が増えてきました。

介護施設の口腔ケア業務として未確立訪問歯科を行っていると、入居時の歯科検診の依頼を多く受けます。歯科治療や専門的口腔ケアの必要がない場合、その後の口腔ケアは本人や家族、介護職員に委ねられます。しかし、介護職員は介護業務に多忙であり、口腔ケアの技術は、施設

り、なかなか口腔ケアに時間を割くことができません。月日とともに入居者の健康レベルは低下し、お口の状態も悪化します。口腔ケアが放置され、適切な歯科受診もできず、気づかないうちに誤嚥性肺炎に至ることも珍しくありません。口腔ケアが継承されていくためには、施設

目標・知識・技術の共有を

訪問歯科を行っていると、入居時の歯科検診の依頼を多く受けます。歯科治療や専門的口腔ケアの必要がない場合、その後の口腔ケアは本人や家族、介護職員に委ねられます。しかし、介護職員は介護業務に多忙であり、口腔ケアの技術は、施設

から転職も多く、知識も技術も不足したまま口腔ケアが行われているのが現状です。また、介護施設の口腔ケアは誰がどのように行うべきか、その見解は統一されていません。そのため、介護業務に多忙な介護職員に合った口腔ケアのマニュアルや指導が求められています。

口腔ケアで誤嚥性肺炎を減らしていくためには、職員の知識、技術、目標の共有が必要です。そのため、始めに全職員に講義と実習からなる口腔ケアセミナーを行いました。施設が、誤嚥性肺炎ゼロプロジェクトに続々と参加しています。興味を示していた施設に伺い、口腔ケアセミナーを行っています。先日も福岡県老人福祉協議会の特養部会でセミナーを行いました。今後は、福岡県全体でも誤嚥性肺炎ゼロプロジェクトの取り組みを行っていきます。

プロフィール
たきうちひろや 1983年生まれ。九州大学歯学部卒業。岡山大学卒後臨床研修センター、岡山大学大学院インプラント再生補綴学分野等を経て、2015年4月より現職。

口腔ケアセミナーでは多職種協働を実感

訪問歯科も、介護施設が口腔ケアを行う機会が増えてきました。

介護施設の口腔ケア業務として未確立訪問歯科を行っていると、入居時の歯科検診の依頼を多く受けます。歯科治療や専門的口腔ケアの必要がない場合、その後の口腔ケアは本人や家族、介護職員に委ねられます。しかし、介護職員は介護業務に多忙であり、口腔ケアの技術は、施設

から転職も多く、知識も技術も不足したまま口腔ケアが行われているのが現状です。また、介護施設の口腔ケアは誰がどのように行うべきか、その見解は統一されていません。そのため、介護業務に多忙な介護職員に合った口腔ケアのマニュアルや指導が求められています。

口腔ケアで誤嚥性肺炎を減らしていくためには、職員の知識、技術、目標の共有が必要です。そのため、始めに全職員に講義と実習からなる口腔ケアセミナーを行いました。施設が、誤嚥性肺炎ゼロプロジェクトに続々と参加しています。興味を示していた施設に伺い、口腔ケアセミナーを行っています。先日も福岡県老人福祉協議会の特養部会でセミナーを行いました。今後は、福岡県全体でも誤嚥性肺炎ゼロプロジェクトの取り組みを行っていきます。

訪問歯科も、介護施設が口腔ケアを行う機会が増えてきました。

介護施設の口腔ケア業務として未確立訪問歯科を行っていると、入居時の歯科検診の依頼を多く受けます。歯科治療や専門的口腔ケアの必要がない場合、その後の口腔ケアは本人や家族、介護職員に委ねられます。しかし、介護職員は介護業務に多忙であり、口腔ケアの技術は、施設

から転職も多く、知識も技術も不足したまま口腔ケアが行われているのが現状です。また、介護施設の口腔ケアは誰がどのように行うべきか、その見解は統一されていません。そのため、介護業務に多忙な介護職員に合った口腔ケアのマニュアルや指導が求められています。

31 長直一 かねたのこた 舟井民彦 佐野かこ 一六二 川口ヒトシ 一六九